

霧島山新燃岳の 2025 年噴火

及川 輝樹¹・木尾 竜也¹・池永 有弥¹・宮城 磯治¹・風早 竜之介¹・岩橋 くるみ¹・
新谷 直己¹・古川 竜太¹・篠原 宏志¹・松本 恵子¹・川邊 禎久²・
草野 有紀¹・東宮 昭彦¹・山崎 誠子¹・クリス・コンウェイ¹・
宝田 晋治¹・石塚 吉浩¹・石塚 治¹

九州の霧島山新燃岳では、2025 年 6 月 22 日に 7 年ぶりに噴火が発生し、断続的に火山灰を噴出するような噴火が続いています。産総研地質調査総合センターでは、噴火の緊急調査を行い、噴出した火山灰の粒子分析や分布・量の調査、ドローンを使用した火山ガス観測などを行っています。また、その結果を迅速にウェブサイトや火山調査委員会などで報告し、火山活動評価などに役立ててもらっています。

詳しい最新の情報は、産総研地質調査総合センターのウェブサイトの「霧島山新燃岳の噴火情報」(<https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kirishima/2025/index.html> 閲覧日:2025 年 9 月 1 日)をご覧ください。なお、ドローンからの空撮は、(株) JDRONE の協力を得て行いました。



写真 1 噴火初期の噴煙の様子。A, B, D は霧島市新湯付近（火口の西南西側）から、C は宮崎県小林市韓国岳山頂付近（火口の北北西側）から撮影。撮影時刻はそれぞれ、A：6 月 27 日 17 時 00 分頃、B：6 月 28 日 17 時 35 分頃、C：7 月 1 日 15 時 13 分、D：7 月 2 日 16 時 20 分。

1 産総研 地質調査総合センター活断層・火山研究部門

2 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード：噴火、活火山、霧島山、新燃岳、火山灰、火口



写真2 7月3日の南東上空からの火口の様子。7月3日14時07分にドローン（DJI M3T）で撮影。新燃岳山頂火口を2018年に埋めた溶岩の北東側に割れ目を作って噴火している。火口近傍においても堆積している噴出物は火山灰が主で、その層厚は薄い。産総研地質調査総合センター（2025）の写真を一部改変。



写真3 7月7日の南東上空からの火口の様子。7月7日9時01分にDJI M3Tで撮影。北東側の割れ目火口に加えて南側にも割れ目火口が形成されている。南側の火口は、7月3～4日にかけての夜間に形成された。3日と同じく、火口近傍の堆積物は火山灰が主で、その層厚も薄い。

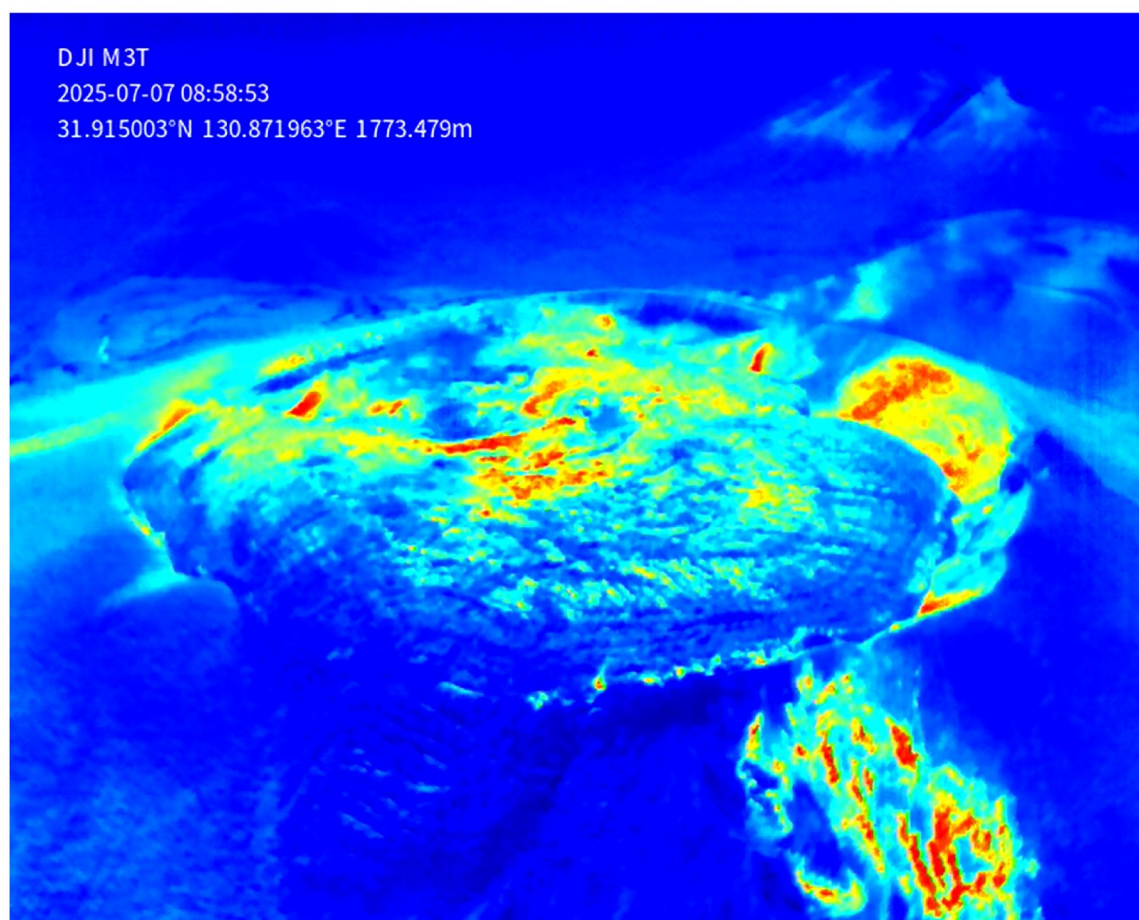


写真4 7月7日の北西上空からの火口。カラー画像（上）と熱画像（下）。熱画像は赤が高温部分を示す。7月7日8時58分にDJI M3Tで撮影。噴気を強く上げている活動中の噴火口以外にも高温部がある。



写真5 降灰調査風景(左)と降灰の様子(右)。左: 6月26日宮城県高原町高崎川上流付近にて、産総研地質調査総合センター(2025)の写真を一部改変。右: 鹿児島県霧島市新湯三叉路, 7月2日14時36分撮影。立ち入り規制された火口から3 kmの範囲より遠い地域で見られる噴出物は、細粒砂サイズ以下の火山灰だけからなる。

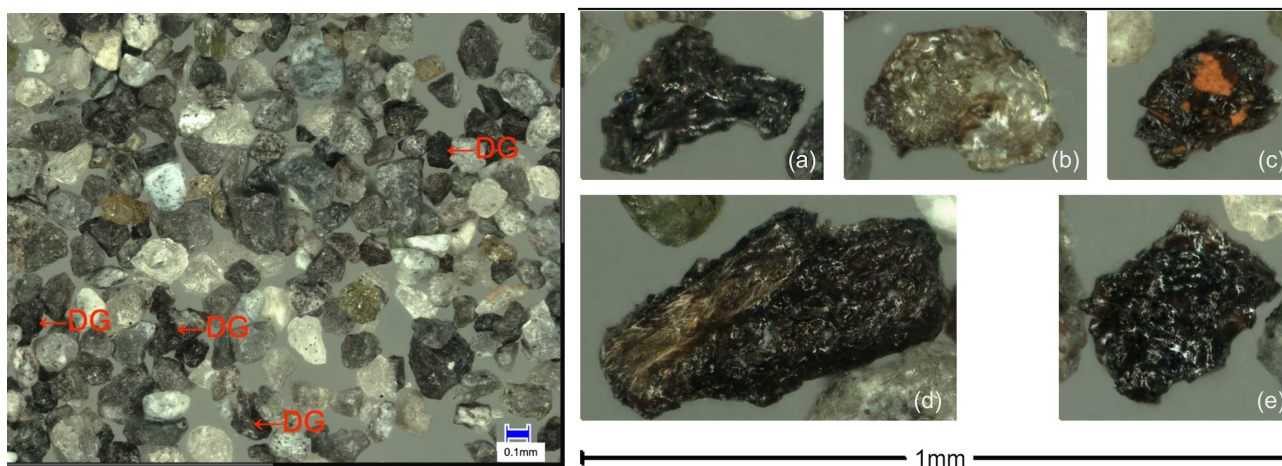


写真6 左: 2025年7月4日に採取された新燃岳火山灰(粒径125 ~ 250 μm)。DG(赤字)が今回の噴火の原因と考えられるマグマ由来の粒子。右(a ~ e): 7月2日に採取された火山灰中のDGの拡大写真。産総研地質調査総合センター(2025)の写真を一部改変。

文 献

産総研地質調査総合センター(2025) 霧島山新燃岳の噴火情報. <https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kirishima/2025/index.html> (閲覧日: 2025年9月1日)

OIKAWA Teruki, KONOO Tatsuya, IKENAGA Yuya, MIYAGI Isoji, KAZAHAYA Ryunosuke, IWAHASHI Kurumi, ARAYA Naoki, FURUKAWA Ryuta, SHINOHARA Hiroshi, MATSUMOTO Keiko, KAWANABE Yoshihisa, KUSANO Yuki, TOMIYA Akihiko, YAMASAKI Seiko, Christopher CONWAY, TAKARADA Shinji, ISHIZUKA Yoshihiro and ISHIZUKA Osamu (2025) The 2025 eruption of Shinmoedake, Kirishima Volcano, Kyushu, Japan.

(受付: 2025年9月3日)